

December 2010

創造行政

上越市創造行政研究所ニュースレター

上越市創造行政研究所は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。様々な社会情勢の変化を見据え、市政の抱える重要課題の解決や理想像の構築に寄与し、地方自治体としての政策形成能力向上を図るため、調査研究などを通じた政策提案を行っています。ニュースレター「創造行政」では、それらの活動を一部ご紹介するほか、上越市のまちづくりを考える上で重要と思われる課題などについて、当研究所独自の視点からお伝えします。

Joetsu city Policy Research Unit

No.21


Report 特集：まちづくりの新たな視点 …1

News 研究所の活動紹介 …8

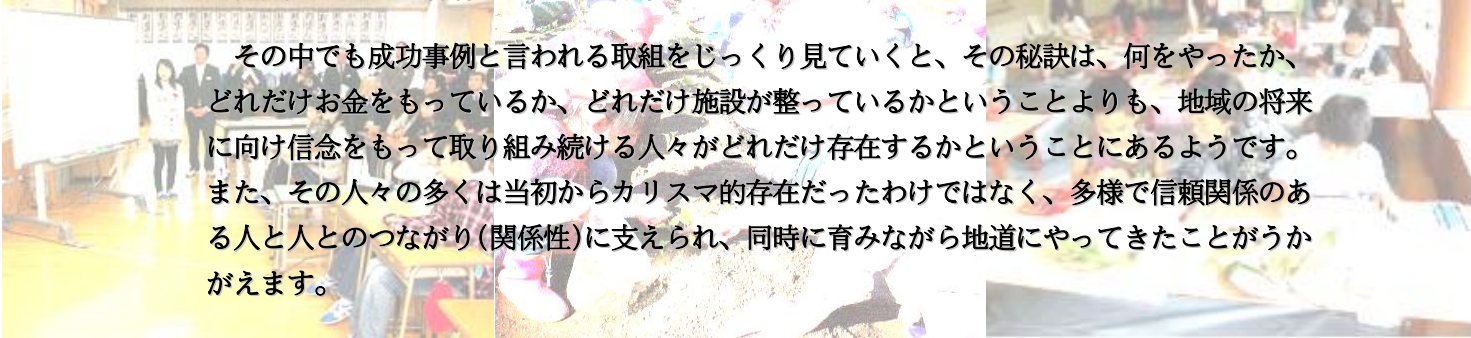
特集

まちづくりの新たな視点

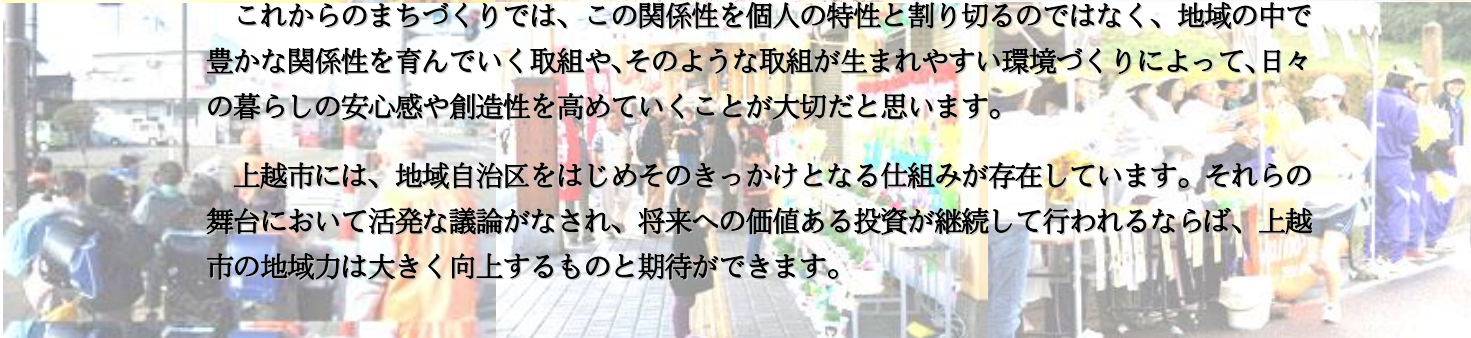
～豊かな関係性を地域の力に～



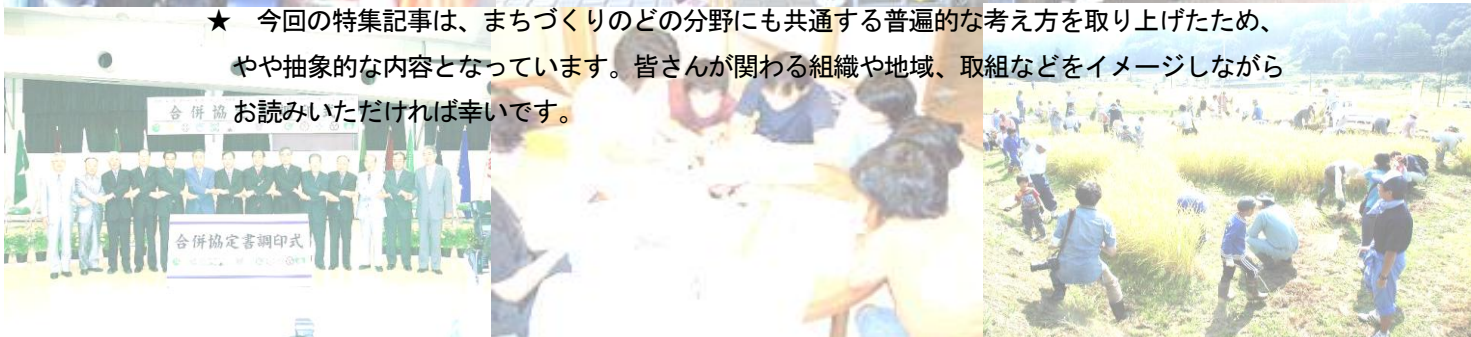
全国の自治体では、まちづくりやまちおこしとして、経済的な支援、道路や施設の整備、イベントの実施などに力を注いでいます。しかし、人口の減少や経済の停滞が続く中、まちを元気にするのは容易なことではありません。



その中でも成功事例と言われる取組をじっくり見ていくと、その秘訣は、何をやったか、どれだけお金を持っているか、どれだけ施設が整っているかということよりも、地域の将来に向け信念をもって取り組み続ける人々がどれだけ存在するかということにあるようです。また、その人々の多くは当初からカリスマ的存在だったわけではなく、多様で信頼関係のある人と人とのつながり(関係性)に支えられ、同時に育みながら地道にやってきたことがうかがえます。



これからのまちづくりでは、この関係性を個人の特性と割り切るのではなく、地域の中で豊かな関係性を育んでいく取組や、そのような取組が生まれやすい環境づくりによって、日々の暮らしの安心感や創造性を高めていくことが大切だと思います。



上越市には、地域自治区をはじめそのきっかけとなる仕組みが存在しています。それらの舞台において活発な議論がなされ、将来への価値ある投資が継続して行われるならば、上越市の地域力は大きく向上するものと期待ができます。

★ 今回の特集記事は、まちづくりのどの分野にも共通する普遍的な考え方を取り上げたため、やや抽象的な内容となっています。皆さんが関わる組織や地域、取組などをイメージしながらお読みいただければ幸いです。

1 まちづくりの鍵を握る「関係性」

◆難易度の高いまちづくり

まちづくりには、中心市街地活性化、中山間地域活性化、産業振興、健康増進などのように「活力」を求めるものや、環境保全、防災、防犯などのように「安全・安心」を求めるものもありますが、いずれも地域の抱える課題を解決し、地域を元気にすることによって、豊かな市民生活を実現しようとするものです。

その手法は、経済的な支援（補助金等の交付）、道路や施設の整備、イベントの実施などが一般的ですが、全国的に見ても成功事例は数少ないのが実情です。



▲ 道路（市役所付近）

▲ イベント（本町商店街）

人口や経済が右肩上がり成長する時代は、何かをすれば人やお金がついてくる状況にありました。しかし、現在では、何らかの策を講じたとしても、その場しのぎで根本的な解決にはつながらなかったり、場合によっては問題の先送りになることも少なくなく、一筋縄ではいきません。

治療に例えるならば、それらの手法は“痛み止めの注射”に過ぎないのかもしれない。完治するためには、その人にあった治療薬はもちろん、最終的には本人の基礎体力や精神力がものを言います。また、可能な限り今後の再発を防ぐため、根本要因を突き止め、体力の強化や生活習慣の改善などによって健康な体づくりに努める必要があります。

◆人と人のつながり（関係性）を経営資本に

まちづくりにおいて、基礎体力や精神力に当たる部分は何かでしょうか。様々な課題解決に向け突き詰めて考えていくと、信頼関係の高い人と人のつながりや多様な人とのつながりが豊かであるか否か、ここが鍵であることに気づかれます。同じ取組をしたとしても、そのつながりの程度によって、相当効果の出る地域もあれば、効果の出ない地域、さらには逆効果になる地域もあるのが実態です。

近年、まちづくりの世界で注目される言葉に「社会関係資本」（ソーシャル・キャピタル）というものがあります。社会関係資本は、人と人のつながりを経済的な資本（お金）や社会資本（道路や施設等のインフラストラクチャー）

と同じように、地域や組織の経営に必要な資本としてとらえたものです。ここで言うつながりとは、

- ・仲間としての強い信頼、きずな
- ・「お互いさま」「一人はみんなのために」といった規範
- ・多様な（老若男女、異業種、多国籍、近隣～遠距離などの）交友ネットワーク

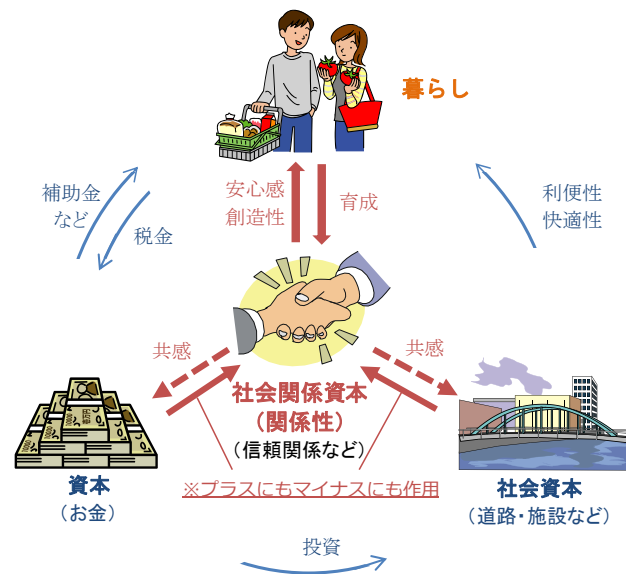
などで構成される裏表のない「関係性」です*。特に多様な交友ネットワークは、日常的な付き合いとは別に、何らかの壁にぶち当たった時にそこを切り抜ける手がかりを与えてくれる貴重な存在となりうるものです。

この関係性は、地域や組織が「チーム」として力をフルに発揮するために必要な「潤滑油」や「触媒（化学反応を促進するもの）」であり、さらには「包容力」や「土壌」などに例えることもできるでしょう。

◆まちづくりの基点となりうる「関係性」

無論、まちづくりには一定のお金や施設整備も不可欠です。しかし、現代はどの地方都市も資金確保や施設整備が大変難しくなっており、単なる陳情合戦で何かを手に入れられる時代ではありません。また、お金の使い方や施設の造り方を誤れば、人々の関係性を断って地域力を削いでしまう危険性があることも念頭に置かねばなりません。

一方、この関係性がしっかりしていれば、まちづくりへの熱意や戦略、行動力を地域の内外に示すことによって、それに共感した人々の力を借りながら結果的にお金や施設を呼び込むことも期待できます。[図1]



[図1 社会関係資本（関係性）を基点とするまちづくり]

* 社会関係資本という言葉は、約100年前にアメリカの農村コミュニティを活性化しようとする中で提起され、約20年前にパットナムという人が取り上げ注目を集めました。なお、専門家によっては定義の仕方に若干の違いがあります。

❖ 関係性の乏しい地域と豊かな地域の違い

関係性の乏しい地域と豊かな地域では、人々の思考や言動が異なる傾向にあります。端的に言えば、チームとしての信頼感があるかどうか、ポジティブシンキング（前向き思考）できるかどうかということです【表1】。無論、すべての人が常にそのような状態を保てるわけではありませんが、ネガティブな状態に陥った時でも立ち直ることができる空気があるかどうか重要です。

関係性が乏しい地域は、物理的・精神的に孤立している人々が多く、「無縁社会」とも言える状態にあります。また、私利私欲に走る人、モラルに欠ける人、癒着する人々も多く、チームとして成立していません。人々は疑心暗鬼の状態に陥り、一つ一つの取組が慎重になるため、何をすることも効率は下がり、出せる力も限られます。信頼関係がないため、例えば個人情報保護やハラスメント対策、防犯カメラの設置、自家用車による子どもの送り迎えなどが強化され、ますます委縮した状態になってしまいます。

一方、関係性が豊かな地域では、いわゆる“顔パス”や“あうん”の呼吸による効率的な活動が可能になります。腹の探り合いや自己防衛に神経を使うことなくのびのびと活動することができます。福祉、防災、防犯などの面では地域住民を支えるセーフティネットとして機能し、教育、経済、自治などの面では様々な知恵や行動力を結集して新

たな力を生み出すインキュベーター（孵化器）として機能するなど、攻守にわたって関係性の力が発揮されます。





❖ 当たり前のこと、無理なことを片付けずに

日本にも「結^{ゆい}」や「講^{こう}」など、これに近い概念は古くから存在していました。しかし、地縁血縁による付き合いの減少や過疎化などによるコミュニティの衰退、経済効率性を追求した分業体制の徹底などによって、地方都市であっても様々なつながりが希薄化しつつあります。課題の本質がそこにあるのがわかっているにもかかわらず、そこを何とかするのは難しいと考えるのが一般的でしょう。

例えば、「世の中、そんなきれい事では考えられない」、「コミュニティの衰退は世の流れだし仕方ない」という意見もあるでしょう。また、何とかしたいと思っても、「自分は人付き合いが得意ではない」とか、「うちの地域には人徳のあるリーダーがいない」と諦める方もいるでしょう。さらには、関係性はデリケートな問題であり「他人がどうこう言える話ではない」という考えもあるはずで

しかし、この点を地域全体で克服しようとするところこそが社会関係資本の真骨頂です。昔ながらのコミュニティに戻そうと考えたり、人徳のあるリーダーの出現をただ待つのではなく、昔から育まれてきた機能に着目しながら、これからの時代に合った、誰もが主役になれる新たなコミュニティを築いていくことが大切になります。

【表1 関係性の豊かさによる思考や言動の違い（例）】

	関係性が乏しい場合	関係性が豊かな場合
 <p>近所 付き合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通りすがりの人をジロツとにらむ。 ・来訪者や転入者に対して冷ややかに対応する。 ・周囲に信頼できる人はいない。 ・自分だけ努力しても意味がない。面倒なことをしたら損をする。 ・困っている人を見て見ぬふり。さわらぬ神にたたりなし。 ・世間話では、近隣の人の悪口が中心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良いあいさつを交換する。 ・来訪者や転入者を温かくもてなす。 ・周囲に信頼できる人々が多い。 ・他人に迷惑をかけないよう、まずは自分でできることを。 ・良い意味でおせっかいを焼ける。情けは人のためならず。 ・世間話では、近隣の人の良いところを言う。
 <p>個人と組織</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いかに自分の仕事を減らすか。そのために仕事の見て見ぬふりをしたり、他人との押し付け合いに労力を割く。 ・失敗したら人のせい（組織の問題を個人の問題に）。 ・自分と異なる意見は封じ込める。周囲もだんだんものを言えなくなる。イエスマンに加え、異なる意見に対する批評家も横行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で仕事をフォローしあって、全体で良くなるようにする。 ・まずは個人で頑張り、個人の足りないところは組織でカバーする（チームプレー）。 ・自分と違う意見やネットワークを持つ人を大切にする。前向きに異なる意見をぶつけあい、皆で答えを導き出す。
 <p>市民と行政</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に行政は信用できない。行政が仕事をさぼったり、住民に仕事を押し付けられないようしっかりと監視する。 →行政は委縮。市民から揚げ足を取られないよう、ミスをしたくないことが最大の業務目標に。解決すべき課題であっても失敗の可能性のある挑戦的な取組はせず、課題の存在自体も認めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の敵は地域の課題。市民も行政もこのまちを良くしていくための仲間。それぞれの立場で頑張る。 ・地域のことは地域に任せてほしい。我々の出番。 →行政は公開の姿勢。課題もつまびらかにして、皆で一緒に考える場を設ける。
 <p>金銭感覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信じられるのはお金だけ。お金がなければ何もできない。 ・土地や建物をいかに行政から高く買ってもらうか。高く買ってくれる人ならどんな業種が来ても構わない。 ・地域の商店や公共交通が衰退するのは仕方ないこと。なぜその再建や運営にお金を出さなきゃいけないのか納得いかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このまちが良くならなければ商売も良くならない。 ・（自分では使い道がない）土地や建物を、若い人が戻ってきて皆のために有効活用してくれればありがたい。 ・地域の商店や公共交通を復活させるため、皆でお金を出しあう。お互いさまの精神で。

◆上越市政の基本方針は「関係性」がキーワード

上越市のまちづくりの最上位計画である「第5次総合計画（改定版）」では、将来都市像に「海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 共生・創造都市 上越」を掲げています。



▲ 上越市第5次総合計画改定版

この「出会い」を言い換えれば「つながり」であり、近隣や市内外との関係性を育む取組を重点戦略に位置付けています。



▲ 上越市議会

また、村山市長は平成22年3月議会の所信表明において、「すこやかなまちづくり」を目標に掲げ、そのためには「多様な関係性を再構築する」ことが重要だと述べています。

上越市政の基本方針には、「関係性」を大切にすることが理念として位置付けられています。

◆国や企業などでも「関係性」に着目

国の省庁や研究機関でも、様々な分野で社会関係資本に着目した検討が行われており、この向上を意図した国の支援制度も行われています。民主党政権で打ち出された「新しい公共」という言葉も、この概念を多分に含んでいるものと思われれます。

民間企業の組織経営でも、行き過ぎた分業体制や人事考課などによる効率主義への反省を踏まえ、社員のモチベーションや創造性などをフルに引き出しながら経営効率を高める方法として、この考え方を積極的に取り入れているところがあります。

2 関係性を育む取組の例

◆関わる人の主体性が不可欠

豊かな関係性を築くために、行政ができることは何でしょうか。まず、市民と行政の信頼関係をつくるために、職員個々の姿勢が大切であることは言うまでもありません。

しかし、市民を中心とした関係性の構築については、一般的な行政サービスとは決定的に異なることがあります。関係性の豊かさは、行政等が行う仕事の成果を大きく左右するものですが、市民の皆さんにとっては、いきなり「関係性をつくりましょう」と言われても恐らく「余計なお世話」でしょう。あくまでも一人ひとりの主体性によるもの

ですので、行政等の役割は市民が関係性を育みやすくなるような環境づくりが中心となります。例としては、行政、市民、企業など、この地域に関わる様々な人々が次のような取組を意識していく必要があると考えます。

【1】関わる人の増加にこだわった取組を進める

◆こだわり変われば手法も変わる

関係性を育む取組は、行政、市民、企業といったすべての主体、すべての分野が対象になりえます。各主体、各分野の取組で「喜んで関わってくれる人々をどれだけ増やせるか」ということにこだわれば、その手法は大きく変わるようになるはずです。

例1 手づくりの公園整備

効率的な公園整備と市民の利便性を追求するならば、専門業者に造成を依頼し、スプリンクラーで水やりをし、市が管理を行うかもしれません。一方、関係性にこだわるならば、近所のお父さんと子どもたちが一緒に日曜大工で遊具をつくったり、おじいちゃんやおばあちゃんが植栽をして水やりをするなど、一人でも多くの人々が楽しみながら公園整備や管理に関わってもらうことを目指します。



▲ 市民による公園整備

例2 ごみ拾いスポーツ大会

市内の清掃については、専門業者に委託するのが効率的です。経費の問題があればボランティア活動をお願いするのが通例です。一方、関係性にこだわるならば、多世代・多様な人々でチームを組み、ゲーム感覚でごみ拾いに取り組んでもらうことも考えられます。



▲ 市民による清掃活動

◆前向きに取り組めるものに手間暇をかける

いずれの事例とも、公園整備や清掃を速やかに行うのではなく、むしろ手間暇をかけることで、人と人との信頼関係を高め、一人ひとりの生きがいや地域に対する愛着・誇りの醸成を目指すものとなります。

無論、物事には急を要するものや専門性、効率性を追求すべきものが数多くありますので、何でも関わる人々を増やせばいいということにはなりません。

また、同じ取組でも「行政がやるべき仕事を住民に押し付けるとは何事だ！」と憤る方もいれば、「ここは私たちの出番だ。楽しんでやろう」と喜ぶ方もいるでしょう。その傾向は地域によっても変わってくるはずです。

ですから、地域で前向きに取り組めるものは何か、地域で議論して決めていく必要があるでしょう。そして「これは」と決めた取組にはあえて手間暇をかけ、じっくり取り組んでいく必要があると思います。

【Ⅱ】関係性を育む人を配置する

❖「世話焼き」や「まとめ役」の減少

かつての地域には、豊かな関係性を支えてきた「世話焼き」や「まとめ役」とも言うべき人や組織が大勢いました。例えば、家族や近隣の人々をはじめ、民生委員、保健師などの地域で働く人々、さらには町内会、婦人会、消防団、商工会、農協、生協などの組織です。

しかし、ライフスタイルの多様化や高齢化の進行に加え、各組織の財政難による人員削減や撤退、社会不安の増大等に伴う個人情報保護の強化などから、そのような機能の一部が衰退する一方で、関わりを続けておられる人々の負担は大きくなる傾向にあります。

❖新たなコーディネーター配置の動き

このような状況で新たな「コーディネート役」が求められるのは自然の流れであり、上越市内でもすでに様々な人や組織が置かれています。具体的には、地域包括支援センター、自主防災組織、地域青少年育成会議、ものづくり振興センター、集落づくり推進員などが挙げられます。ここではそれぞれの説明は省略しますが、今後ますます重要な役割を担うものと思います。



▲ 地域包括支援センター
(福祉交流プラザ)

❖コーディネーターの全体最適化を

コーディネーターは、担い手のいなくなった仕事をそのまま引き受けるのではなく、市民一人ひとりや地域が本来持っている力を見だし、関係性を構築することでその力を発揮できるようなサポートが重要な役割になります。

ただし、役割を細分化された肩書が分野ごとに増えるだけでは、特定の人に負荷が集中したり、行政の縦割りの壁で動きが限定され、地域の立場からみれば活動が煩雑になってしまう恐れもあります。現段階では、各分野内の様々

な取組を調整するだけでも十分に意義深いものと思いますが、将来的には分野ごとにコーディネーターを置くのではなく、地域全体の視点からみて効果的・効率的な役割分担というものを考えていく必要もあるでしょう。

【Ⅲ】関係性を育む仕組みをつくる

❖ローカルなチャンネルをつくる

関係性を豊かにするためには、そのきっかけとなる人、もの、お金、情報をつなぎ易くする仕組みも必要でしょう。

私たちの日常生活は、全国や世界規模で定型化された人、もの、お金、情報によって支えられており、意識しているか否かに関わらず、東京や世界との深いつながりを持っています。この地域に住んでいても、この地域独自のものとつながりは意外に少ないのではないのでしょうか。

以下の例は、日々の生活の中で世界標準・全国均一ものとつながるグローバルなチャンネルに加え、地域独自のものとつながるローカルなチャンネルをつくり、新たな関係性を育む支援をする仕組みとも言えます。[図2]

例1 地域SNS (情報の流れ)

インターネット上に地域の口コミ情報などを掲載し、会員同士で共有する地域SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が全国各地で立ち上がっています。これは、匿名性のあるバーチャルな世界をつくろうとするのではなく、現実社会での交流をより深めることに大きなねらいがあります。ライフスタイルなどが異なる人々であっても、地域の情報に興味を持ってさえいれば、イベント情報から災害時に必要な物資に至るまで、「求めます」、「できます」の情報を都合に合わせて交換することができます。

例2 地産地消 (ものの流れ)

農林水産業の活性化や環境保全などの観点から、地元の生産品を地元で購入する運動が全国で行われていますが、上越市でも、朝市や農産物直売所、「上越野菜」などを盛り上げようとする動きが見られます。このことは地域内のつながりを深めるきっかけにもなります。



▲ 朝市

例3 地域通貨 (お金の流れ)

地域通貨(エコマネー)は、一般に貨幣換算されない善意の活動をやりとりするための地域独自の通貨であり、全

全国各地で様々な単位の通貨が造られています。メニューは、肩もみや話し相手といった気軽なものから、清掃活動や農作業などのボランティア、特技を生かした先生役や製作活動に至るまで様々です。

地域通貨は、一方的な授受の関係では流通しません。「求めます」「できます」といった善意の交換を促進することによって、そこに関わる人々が誰かにお世話になったり、誰かの役に立っている関係を生み出すことにつながります。

例4 公共交通、コンパクトシティ（人の流れ）

全国の地方都市ではマイカーを利用した生活や郊外の開発が一般化する一方で、健康福祉、環境、防災、防犯、財政上の観点などから、公共交通の活性化やコンパクトなまちづくりの必要性も言われています(⇒参考 ニュースレターNo. 7・14)。このまちづくりは、関係性を育むことにも大きく関わるものです。

マイカーによる移動は、移動効率性や快適性に大変優れていますが、裏を返せば、時間のゆとりや公共空間との接点が少ないということになります。



▲ コミュニティバス

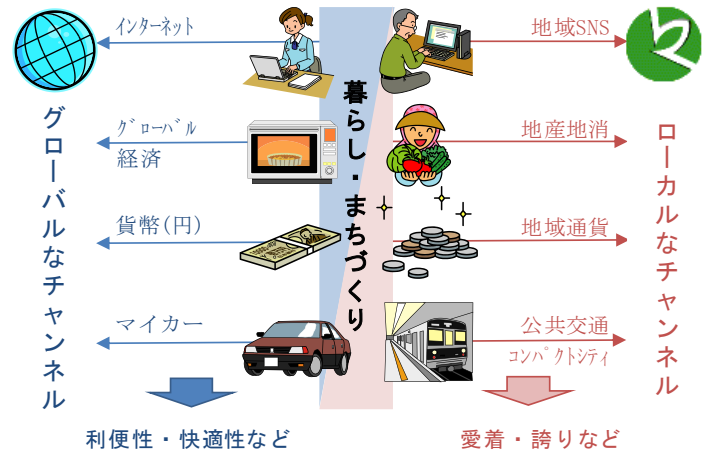
一方、様々な都市の機能がコンパクトに集まり、地域の歴史や文化を感じることでできる景観があり、公共交通や歩いて移動できる地域には、子どもや高齢者、外部からの来訪者といった多様な人々が

気軽に集うことができます。また、移動や待ち時間の中で想定外の出会いがあり、何らかの気づきを生み出す確率を高める効果を持っています。

◆ 中身と仕組みの成長を両輪で

これらの仕組みは、日々の生活の中で関係性を豊かにする可能性をさりげなく高めていくものです。しかし、実態の活動が伴わず仕組みづくりだけが先行してしまえば、せっかくの仕組みも形骸化してしまう可能性があります。一方で、その仕組みがないが故にその活動が力を発揮できないようなことがあれば、もったいない話です。中身と仕組みが両輪で成長していくような制度設計が必要です。

このような取組の積み重ねは、地域独自の関係性をつくり、最終的に地域独自の文化をつくり出す可能性を持つ点でも重要な意味を持ちます。そのことが、地域に住まう人々の愛着や誇りという最大の地域力を生み出すからです。



【図2 グローバルなチャンネルとローカルなチャンネル】

3 関係性を育む取組を見極める

2で例示したような関係性を育む取組に参加したり、支援を行おうとする際には、その取組に対する評価が必要となります。しかし、取組内容を表面的に見ただけで、その良し悪しを見極めることはとても困難です。

◆ 同じ取組でも意識一つで天と地の差

関係性を育めるか否かは、取組内容そのものよりも進め方（プロセス）や意識が鍵を握ります。

例えば会合一つをとっても、愚痴や悪口を言い合う集まりは関係性を乏しくさせるだけですが、住みやすいまちにしようとする前向きに議論する異業種の集まりは豊かな関係性を生み出すことになるでしょう。

また、見かけ上同じ取組であっても、この地域を良くしていこうとする公益のためなのか、単なる懇親なのか、自分の力の及ぶ範囲を広げたいという私利私欲によるものなのかでは、地域にとって全く異なる結果となります。

◆ 短期的な効率では測れない“縁の下の力持ち”

より本質的な問題として、潤滑油や触媒といった縁の下の力持ちを評価することの難しさもあります。関係性は、いわゆる無用の用、「あそび」、「バネ」などに形容されるものであり、効率的につくれるものではありません。

現代は、国の事業仕分けに象徴されるように、費用に見合った効果を効率的に出せるのか、これまで以上に厳しく問われる時代です。このような中で関係性を育む取組が認知されることは容易ではありません。

したがって、例えば健康増進、教育、環境保全、経済活性化などの目的をもった取組に関係性を育む機能を織り込んでいくような工夫も求められます。

❖成功するまで地道に続けていく力があるか

その取組が本物か否か——極論すれば、それを行おうとする人々の熱意と行動力で判断するしかありません。それでもその取組が確実に成功する保証はありませんが、成功するまで地道に続けていく力があるか、そこが最大の評価ポイントと言えます。

このことを機械的な尺度で測ろうとすればするほど、その本質を見失うことになるでしょう。しかし、真剣にまちづくりを考え実践したことがある人であれば、それが本物であるか見極めることができるものと思います。

4 地域自治区 — 関係性を育む貴重な舞台

❖議論する文化を

上越市では、市の全域に 28 の地域自治区を導入し、市民が地域の重要な課題などについて話し合い、その結果を市長等に伝える「地域協議会」を各区に設置していますが、ここは関係性を育むきっかけとなる貴重な舞台と言えます。



▲ 地域協議会

地域の多様な人々が集まり、地域の将来を考え、真剣に議論しながら課題や方向性を共有し、信頼関係をつくっていくプロセスは、関係性を育むための極めて正攻法であると言えます。

一般に新潟県民は「おとなしい」、「奥ゆかしい」などと形容されがちですが、この良い面は守りながらも、真に議論すべきことは臆することなく議論していく勇気も上越市民の新たな文化となれば、この地域の将来にとって大きな力になると思います。

❖将来への価値ある投資に

上越市では、地域主体のまちづくり活動に対して助成等を行う「地域活動支援事業」を行っています。この事業の対象となる取組は分野を問いませんし、事業採択の審査も地域協議会で行われるなどの柔軟性を持っています。

つまり、関係性を育む取組のように、効率性というよりも熱意や行動力で評価されるような取組を実行できる、極めて貴重な機会であると言えます。

この資金をどのように使うのかは各区の自主性に委ねられていますが、関係性に代表されるような地域の底力を育むための投資に使うことができれば、その地域の将来に大きく効いてくるものと思います。

❖不確実性の高い時代だからこそ「関係性」

高度経済成長の時代は、社会の巨大な分業体制（一種の関係性）の中で、自分の決められた役割を着実に果たすことが、効率的に豊かさを享受できる方法でした。

しかし、当時の発展の前提条件は崩れ、経済・財政的にも厳しい中で様々な課題が山積し、「これさえやれば大丈夫」というモデルのない不確実性の高い時代になりました。

だからと言って、「先が見えない厳しい時代。お金がないのでとにかく我慢しましょう。」では、将来に希望が持てません。「これからはいつ何が起こるかはやわからない。だからこそ、皆で楽しみながら関係性を豊かにし、様々なピンチやチャンスを受け止められる地域力をつけていきましょう。」——関係性を大切にすまちづくりには、発想を転換することで時代の閉塞感を打破するメッセージが込められています。

人生もまちづくりも同様に、何かしら成功したことの要因を振り返ってみると、幸運に恵まれたからと思えることがあるでしょう。しかし、その幸運の前提には、自身の日頃からの努力はもちろん、恐らく人と人とのつながりがあったことも見逃せないものと思います。関係性を育むまちづくりは、不確実性の高い時代だからこそ必要な、幸運に出会う能力（セレンディピティ）を高めるまちづくりとも言えます。

❖既存の取組をいかして関係性を深め、広げる

今回挙げた取組はほんの一例であり、市内では、関係性を豊かにする取組に当たるものが数多く行われているはず。それらの多くはささやかなものであったり、特段意識せずに取り組みされているものと思いますが、大切なことは、そのような取組がこれまでになく重要な時代になったということです。

一人ひとりがそのことを意識しつつも、義務感や辛さではなく楽しさを前面に出しながら、可能であれば関係性を深め、もしくは多様に広げていく一方で、それらを支援する環境づくりが進むことで、上越市の地域力は大きく向上し、未来が拓けていくものと思います。（主任 内海 巖）

**Report 1 地域サポート人ネットワークシンポジウム
東日本大会 参加**

- 平成 22 年 10 月 30 日
- 長岡商工会議所(長岡市)

全国の中山間地域で過疎化に拍車がかかるなか、補助金による地域づくりの限界をうけて、「補助人」(支援員)を送り込む取組が全国各地で始まっています。本大会はその取組現場における様々な課題の共有と、解決に向けた連携を目的に開催されました。



▲ 基調講演

現場の支援員からは、地域に受け入れてもらうまでの苦労や世代間交流などの取組が紹介され、人材や交流の重要性が示されました。支援員を支援する立場の行政や有識者からは、支援員のスキルアップや身分の安定といった課題のほか、行政—支援員—地域住民の3極を地域全体のシステムとしてとらえ、それぞれの役割を見直す必要性などが示されました。



▲ パネルディスカッション

当市でも 10 月から集落づくり推進員による取組が始まりました。その動きも踏まえながら中山間地域活性化の方策について考えていきたいと思えます。(清水)

**Report 2 第 3 回まちづくり職員トーク
(市職員向け勉強会) 開催**

- 平成 22 年 11 月 2 日
- 春日謙信交流館

当研究所では、平成 18 年度から市職員を対象としたまちづくりの勉強会として、まちづくり職員トークを開催しています。今回は NHK の番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演された農林水産省の木村俊昭氏をお招きし、地域活性化の基本的な考え方について、ご自身の経験や見聞を交えてお話いただきました。



▲ 講演

地域活性化とは、まち全体を最も良い状態にすることであり、そのために所得の確保、人材の育成と定着、そのような取組がきちんと評価されることが必要。そこに向けて、各分野、各人でバラバラに取り組む(個別最適化)のではなく、全体最適化を図り、主体的にかかわる人を増やしていくような全体設計が必要であるとお話でした。

この考え方は研究所が業務に取り組む際の、総合的、中長期的、広域的視点に通じるものがあります。今後とも調査研究活動を通じてこの視点を広めていきたいと思えます。(清水)

アンケート結果 (ニュースレターNo.20)

前回発行のニュースレターNo.20 に対し、皆さまから数多くのご意見・ご感想をお寄せいただき、ありがとうございます。以下、一部をご紹介します。

■ 直江津港をいかしたまちづくりについて

- ・直江津港は上越市の重要財産だと思う。これをいかした一流企業の誘致が必要ではないか。
- ・直江津港の課題については以前から言われてきたことである。強力なリーダーシップと資金の掘り出しで行動につなげていかなければならない段階である。
- ・部分的なにぎわいの創出にならないよう市全体のことを考えるべきではないか。

■ データでみる上越について

- ・地区単位の人口増減は市民にとって重要な情報である。
- ・中山間地の人口減が非常に心配である。

■ 全般について

- ・次世代を担う若者への接触が大切な事案である。若者、地域住民とも大いに会合を試みて欲しい。
- ・上越市のビジョンをわかりやすく訴えていくような内容にしてほしい。

いただいた意見は、今後の調査研究活動等の参考にさせていただきます。

また、残念ながら本紙で活動内容をすべてお伝えすることはできないため、当研究所のホームページを参考にご覧ください。

研究所カレンダー

(平成 22 年 10 月～11 月)
研究所外での活動の一部をご紹介します。

- 10/23-24 日本都市学会第 57 回大会 参加
- 10/29 第 9 回都市政策研究会 参加
(財)日本都市センター主催)
- 10/30 地域サポート人ネットワークシンポジウム 参加(新潟工科大学主催)
⇒ [Report 1](#)
- 11/2-3 農林水産省木村俊昭氏 来越
【職員トーク、農商工連携に関する意見交換、市内視察】⇒ [Report 2](#)



視察の様子

- 11/13-14 三遠南信サミット、三遠南信しんきんサミット参加
- 11/17 「新しい公共」活動報告会 参加
(国土交通省北陸地方整備局主催)

編集後記

今回の特集記事は 7 ページとし、「データでみる上越」、「まちづくりコラム」はお休みしました。概念的な話を中心にりましたが、これを機に総合計画や地域自治区などにも関心を持っていただければ幸いです。【編集:清水】

ニュースレターは、木田庁舎 1 階市政情報コーナー、各総合事務所でも閲覧可能です。また、当研究所のホームページには[フルカラー版](#)で掲載しています。

**上越市創造行政研究所ニュースレター
「創造行政」 No. 21 Dec. 2010**

発行: 上越市創造行政研究所
〒943-8601 新潟県上越市木田 1-1-3 上越市役所
TEL:025-526-5111 FAX:025-524-6105
E-mail:souzou@city.joetsu.lg.jp
URL:<http://www.city.joetsu.niigata.jp/gyosei/souzou/index.html>